



木もれびの森の虫たち - 11

今年は日照時間も例年に比べて少なく、当会の活動も雨に祟られ度々中止になっております。気温も段々と低くなり、あっという間に花の季節は終わり、いよいよ厳しい冬が訪れる気配が感じられます。悩まされたスズメバチもおとなしくなるでしょう。木もれびの森の虫たちも何処かに潜り込んで殆ど見受けられなくなりました。

今回はその鮮やかさに驚かされる虫たちの色について学びたいと思います。もともと色素があって光と反応させ色を出すものと、外殻の構造を活かし光の反射、散乱、吸収により色を出す構造色(蝶や甲虫類)とがあります。構造色の種類は薄膜干渉(単層・シャボン玉)、多層膜干渉(薄膜が沢山並んでいる・タマムシ)、回析格子(小さな穴が並んでいる・CDの虹色)等があります。色の意味は同種か他種かの認識シグナル、配偶行動での雌雄の婚姻色、天敵に対する隠蔽色、警戒色、擬態色等です。また、昆虫は人間には見ることが出来ない紫外線を見ることが出来ます。

色彩豊かな色合いも昆虫たちの眼にはどう映っているのでしょうか。いずれにしろ生きていくための知恵と工夫が施されているのでしょうか。ちなみにジョロウグモの体色の配置は昆虫にとって、蜜のある場所にみえるそうです。(海野)



アケビコノハノ幼虫



カメムシの幼虫



サシガメの幼虫



オオスズメバチ



アカスジカメムシ



ジョロウグモ



シャチホコの幼虫

こもれびの森の樹木

サネカズラ (マツブサ科サネカズラ属)

晩秋の森の中では、いろんな木の実を見ることが出来ます。この鹿の子饅頭のようなもの、サネカズラの実です。粒々の果実がたくさん集まって一つの鹿の子饅頭のようなになっています。熟すともっと赤くなります。ひとつの実の中に種が2~5個入っています。百人一首を楽しまれる方は、「名にし負はば あふ坂山のさねかづら 人に知られで くるよしもがな」という歌を思い出されるかも知れません。サネカズラの蔓をたぐって恋する人に会いたいという思いなのででしょうか。なるほど、この蔓は、なかなか芯が強く、しっかり森の中の木に絡みついています。



ところで、この蔓の皮をむいてよく揉むと、段々粘りが出てきます。そのはずで、この汁を男性の鬢付け油に利用したことから、別名ビナンカズラ（美男蔓）とも呼ばれているともいわれているのです。夏、黄白色の花を咲かせます。緑の森の中では目立ちませんが、見つけたらとても嬉しくなる花です。葉は厚く光沢があります。実がつくころ、葉の裏が写真のように赤みを帯びてくるのが特徴です。冬も葉をつけている常緑樹で、蔓性の植物もテイカカズラやサネカズラのように素敵なお花や実をつけるものがあります。どうぞ、こもれびの森の中で見つけてください。（鳥飼）



虫こぶの不思議(その3)

虫こぶの事をゴールと呼ぶようになってきた事は前にお話ししましたが今回はゴールを作っている、形成生物についてお話しします。ゴールを形成するものの大部分は動物です。

- ① ウイルス類
- ② マイコプラズマ様微生物
キリ・サツマイモ等てんぐ巣病(葉が縮小、枝・茎等が分枝して叢生する)
- ③ 細菌類
ニンジン等の根頭がんしゅ病、マメ類の根粒等は細菌による。
- ④ 菌類
担子菌類・子のう菌類が植物に寄生する。ツツジ・ツバキ・サザンカの葉がふくれるのは餅病菌による。アカマツ等の枝の準球形のこぶはマツのこぶ病菌。
- ⑤ 線虫類
多くの植物にこぶを作り農業上の害虫になっている。
- ⑥ ダニ類
ダニ類でゴールを作るものは、フシダニ科のものが多
い。クリフシダニ・ヌルデフシダニ等。
- ⑦ アザミウマ類
虫えいを作るのは、雌の腹端下面に鋸状の産卵管を
持つアザミウマ科とそれを持たないアザミウマ科に限ら
れる。
その他⑧グンバイムシ類 ⑨ キジラミ類 ⑩ コナジラミ
類 ⑪ アブラムシ類⑫ カイガラムシ類 ⑬ 甲虫類 ⑭
ハバチ類 ⑮ タマバチ類 ⑯ コバチ類 ⑰ タマバエ類
⑱ キモグリバエ類 ⑲ ハモグリバエ類 ⑳ ミバエ類 ㉑
蛾類 などがある。

参考文献:「虫こぶハンドブック」

写真はガマズミケフシで形成者はガマズミケフシタマバエで⑰のタマバエ類です。私が最初に森で見た時は平成 21 年で近年増えてきています。(高橋)

